

お知らせ

富士山大沢崩れの堆積土砂量調査の結果について

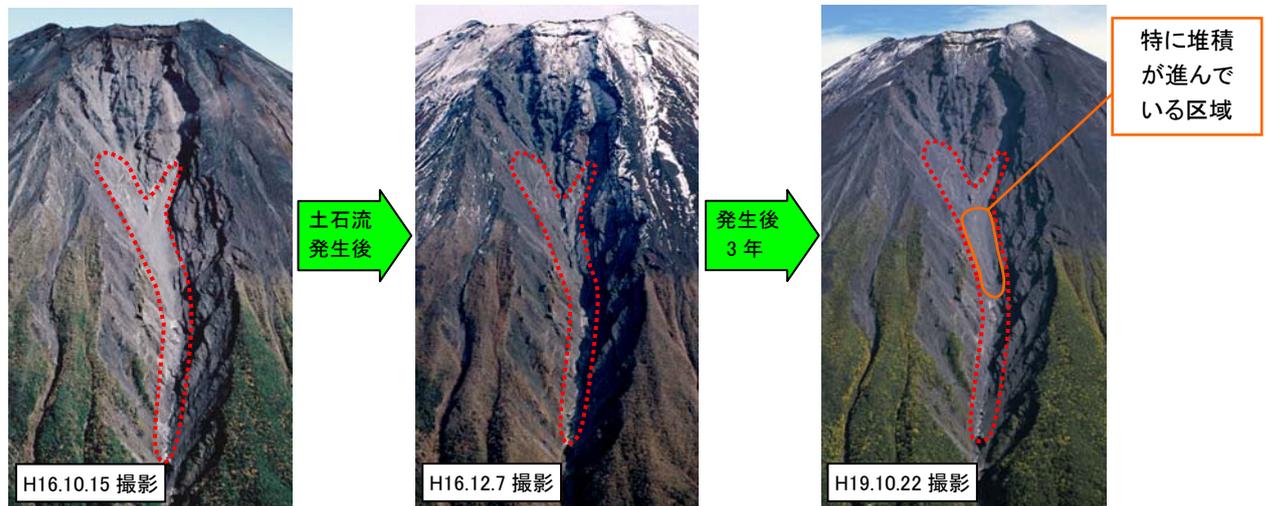
1. 概要

富士山大沢崩れは富士山西斜面に位置し、山頂直下から標高 2,200m 付近まで、延長 2.1km、最大幅 500m、最大深さ 150m、崩壊面積 1km² の我が国最大級の大崩壊地です。これまでも膨大な土砂を生産・流出し、下流域では土砂災害を度々引き起こしてきました。

富士砂防事務所では、これまでに大沢川での土石流対策事業とあわせて、源頭部における堆積土砂量についても調査を実施しておりますが、平成 19 年度の調査結果をとりまとめましたのでお知らせします。

2. 概況

現在の大沢崩れの谷底部（写真の赤囲みの部分）の堆積土砂量は平成 18 年 10 月以降 4 万 7 千 m³ 増加し、全体で 28 万 5 千 m³ となっています。今後も、土石流の発生に対して注意が必要です。



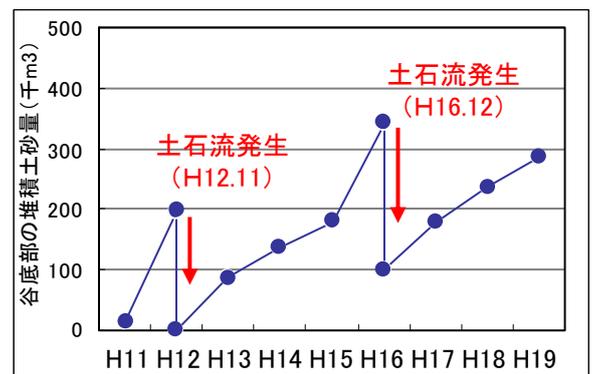
大沢崩れ斜め写真（谷底部の土砂堆積状況）

3. 谷底部堆積土砂量の推移

平成 16 年 12 月に土石流が発生し、堆積土砂量は一旦減少しましたが、その後堆積が進行しています。（右図）

4. 過去の土石流発生現象

過去、大沢崩れでは、11～12 月や 4～6 月に大規模な土石流が度々発生しています。直近では、平成 16 年 12 月に大規模な土石流が発生しましたが、砂防施設（大沢川遊砂地）により土石流を捕捉し、被害の発生はありませんでした。



（図） 谷底部堆積土砂量の推移

5. 配布先：富士市記者クラブ、富士宮市記者クラブ

6. 問い合わせ先

国土交通省中部地方整備局 富士砂防事務所 TEL：0544-27-5221（代表）
副所長 谷田 良三
調査課長 石原 慶一